

第2回「九陽文社展」開催

令和7年12月6日（土）～7日（日）、大阪産業創造館において、第2回九陽文社展を開催いたしました。

長らく定着していました奈良の地を離れ久しぶりに活気溢れる大阪での開催、会期中は多くの方々に足をお運びいただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。

会員総数 百数名と学生三十名が、未熟ながらも一年間の練習成果として発表した作品群、ご来場の方から「静謐な空間で書と向き合えた」「私も筆を持ちたくなった」といった温かなお言葉もいただき、会員一同、大きな喜びと次なる創作への活力を得ることができました。特筆すべきことは、会場を荘厳に彩った尾崎邑鵬先生の御作です。圧倒的な存在感と深遠な世界観で、会場の核としてお迎えできたことは、この上ない光栄であり、深い感慨を禁じ得ません。

また、特別展観として昭和100年を記念し、獨斷で昭和の漢字作家十選を供しました。

戦後の書壇を復興し、今日の書道界を発展させた先達の先生方の作品は様々な表現があり、とても魅力的でした。会期中、特別展観解説会を開催し、昭和書道の背景と特徴、帖学派と碑学派についてなど実際の作品を見ながらの解説は、会員の皆さんにとってとても勉強になりました。

展覧会初日の夕刻の懇親会では、bingoゲーム等で大変盛り上がり、九陽文社のモットー「書道の練習は一生懸命取り組み」「書道を通じて楽しくより豊かな人生に」を少し実現できたかなと思っております。

会期中は由源社会長尾崎司邑先生をはじめ、由源社の先生方にたくさんお越しいただき、激励のお言葉を頂きました。また、先生方、業界の社長様から祝花や祝電を頂戴し心より御礼申し上げます。

第3回展は、令和9年1月10日（日）～11日（月・祝）の日程で、大阪産業創造館において開催が決まりました。次回展に向けて、会員の皆さんとともに楽しく創作に取り組むべく精進してまいります。

書道研究 一輪 代表 小田大拙

～展覧会の様子～



机上は巻子、冊作品



学生作品

特別展観（昭和漢字作家）

